

女性のための就労支援講座の効果について

非正規職シングル女性を対象として -

Evaluation of an Employment Support Program for Women Seeking Reemployment for Unmarried Female Non-Regular Workers

三好きよみ¹

Kiyomi Miyoshi

女性労働者の過半数を超える非正規雇用の中でも、特にシングル女性の多くは年収が低く、将来への不安を抱えている。福岡県男女共同参画推進課では、このような非正規職シングル女性を対象とし、非正規職で働く女性の不安を軽減するとともに、仕事に役立つ知識を得ることで、正規雇用の転換や仕事に対する意欲の向上を促すことを目的とした「女性の仕事と暮らし応援講座」を企画し実施した。本講座の概要を紹介し、参加者が、本講座によってどのような変化があったか、アンケートによる調査分析を行った結果について報告する。自己効力感尺度（横浜市男女共同参画推進協会，2015）によって、講座受講後と比較分析した結果、「現状を改善するにあたっての心の準備状態」、「自分らしい働き方・家庭との両立」、「将来展望・目標設定」、「職業選択のための行動」のすべてにおいて自信が高まっている傾向がみられた。

キーワード：非正規職、自己効力感尺度、就労支援講座

Keyword：Non-regular employment, Woman Self-Efficacy Scale for Reemployment, Employment promotion programs

1. はじめに

労働政策における規制緩和により、1990年代後半から、2000年代にかけて非正規雇用が増加した。1985年には、16.4%であった非正規雇用率が、1990年20.2%、1995年20.9%、2000年26.0%、2005年32.6%、2010年34.4%と上昇してきた。以降3分の1を超える水準で推移している（厚生労働省，2013）。2020年1月から3月期の調査結果では、5661万人の雇用労働者のうち、38.0%が非正規雇用であり、女性においては、2639万人の雇用労働者のうち、56.0%が非正規雇用である（総務省統計局，2020）。

女性労働者の過半数を超える非正規雇用の中でも、特にシングル女性の非正規雇用問題がある。ここでいうシングルとは、結婚していない状態である「独身」、「未婚」、「無配偶」等をいう。横浜市男女共同参画推進協会を中心とした非正規職シングル女性のニーズ調査結果（2016）によると、次のようなことが明らかになっている。シングル女性は、非正規雇用の中でもフルタイムでの契約や嘱託、派遣社員の比率が高く、年収は、150万円未満 約3割、150万円以上250万円未満 約4割、250万円以上 約3割である。7割が年収250万円未満であり、等価可処分所得の中央値の半分である貧困線（厚生労働省，2016）の122万円に近い層も3割である。非正規職についている理由は、「正社員として働ける会社があったから」という、いわゆる不本意非正規が6割超であった。仕事に対する悩みや不安の上位には、「収入が少ない」が8割超、「雇用継続（解雇・雇止め）の不

安」が約6割である。利用したいサポートの上位には、「仕事に必要なスキルアップの場」、「職業訓練・資格取得支援」が約4割と直接仕事に関する項目があがっていると同時に、「同じ立場の人たちとの交流の場」「話を聞いてもらえる場」、「非正規シングル女性の交流サイト」もそれぞれ約3割ある。自身が置かれた状況などについて共有・共感できる人達との関係性の構築やそれができる場を求めていることがわかる。

全国ではハローワークを中心として、様々な就労支援を行っている。東京仕事センターでは、女性再就職支援として、希望に合わせたセミナーや仕事の基礎を学ぶサポートプログラムを開催している。一方で、事務系の仕事に人気があり応募が集中するため、相対的に希望条件を満たす求人が少なく、応募機会が得られないことが課題となっている（厚生労働省，2017）。就労に必要なと思われる知識やスキルを学んでも、実際にそれらを活かした仕事に就けるかどうかは確実でないということである。このような問題を踏まえて、横浜市男女共同参画推進協会では、平成28年度地域における女性活躍推進モデル事業として内閣府からの委託を受け、非正規職シングルのための支援プログラム「仕事とくらしのセーフティ講座」を開発、実施するとともに、webサイトの運営を行っている（横浜市男女共同参画推進協会，2016）。福岡県男女共同参画推進課においても、対象を非正規、シングル、女性とした就労支援講座を開設している（福岡県男女共同参画推進課，2020）。

進路選択や就職活動については、自己効力理論を適用し

¹ 東京都立産業技術大学院大学 産業技術研究科
Advanced Institute of Industrial Technology

た多くの研究がある。自己効力とは、ある行動が自分にうまくできるかどうかという予期、すなわち効力予期の認知されたものであり、行動と直接的な関連を持つと仮定されている(Bandura,1977)。またこれは、どれくらい努力をするか、困難に直面した際に、どれくらい耐えうるかを決定するとされている。大学生を対象とした研究としては、就職先を決定できる、就業できるという自己効力感が高い者ほど就業不安を軽減し、就職意欲を高めることが示されている(古市,2012)。女子大生を対象としたものとしては、強い進路選択に対する自己効力感が積極的な就職活動を導いている(浦上,1996)、進路が決定した4年生は、未決定の4年生、および就職活動開始前の3年生と比較して自己効力感が高い(柴田・安住,2011)、自ら就職先の情報を収集し自分を肯定的に評価して自分を高めたいという動機を持っている者ほど就職できる(安達,2001)、自己効力が高い人ほど、就職活動の行動時期が早く行動が積極的である(富永,2000)などが示されている。

一方、シングル女性を対象とした就労支援に関する調査分析は限られている。保健・福祉・保育分野への再就職・転職を目指す女性を対象とした就労支援プログラムにおける講座受講前後の自効力感尺度の調査分析では、特にキャリアプランニング講座が自己効力感を高めるのにより効果的であることが示されている(奥田,2018)。非正規職シングル女性を対象としたプログラムでは、講座受講前後の自効力感尺度の調査分析により、自分らしい生き方・家庭との両立、職業選択のための行動について、有意差が示されている(奥田,2017)。

本論文では、先に述べた、福岡県男女共同参画推進課で実施した非正規職シングル女性を対象とした就労支援講座において、自己効力感に関するアンケート調査を実施し、この講座の有用性について一定の評価ができたため報告する。第2章で、講座の概要を紹介する。第3章で、自己効力感に関するアンケート調査の分析結果を報告する。最後に今後の課題と展望を述べる。

2. 「女性の仕事と暮らし応援講座」の概要

本論文で対象とする「女性の仕事と暮らし応援講座」は、福岡県男女共同参画推進課が、非正規職のシングル女性に対する調査結果の動向を踏まえ、新規開設したプログラムである(福岡県男女共同参画推進,2020)。以下に対象者、目的、内容等について述べる。

2.1 対象者、目的

原則として、非正規職のシングル女性を対象としており、非正規職で働く女性の不安を軽減するとともに、仕事に役立つ知識を得ることで、正規雇用の転換や仕事に対する意欲の向上を促すことを目的としている。また、受講者が気軽な雰囲気に参加できるように、講座名を「キッカフェ」とし、休日にお気に入りのカフェで、気の合う仲間とおし

ゃべりするような感覚で参加できるように雰囲気づくりをしている。

2.2 講座の内容と日程

本講座は、福岡市と北九州市と2か所で、それぞれ4回講座として行われた。場所は、福岡市天神駅、小倉駅近くという便利なところであり、会場は一般的な会議室のようなところではなく、コミュニティスペースとして適した場所であった。第1回から第4回までを連続して参加するのが原則であるが、単体での参加も可能とした。2会場で日程を変えて同内容を実施し、受講者が都合に応じてどちらの会場でも受講することが可能である。

第1回から4回の講座の内容を以下に示す。講座は、1回あたり2時間程度であり、グループワークやディスカッションで、自分自身を振り返り、見つめ直す時間を多く設けている。また、毎回の講座終了後に、気軽な不ニキで話せるように茶話会風の交流会を設け、受講者同士のネットワークづくりを促した。

第1回 2019/11

「「キャリアとワタシ」～立ち止まって考えよう～」
勇気をもたらす事例レポート、強みを発見できる自己分析

第2回 2019/12

「労働市場のトレンド」
求められる仕事とワタシの強み、セルフメンタルケアのアドバイス、ミニヨガレッスン

第3回 2020/1

「お仕事リテラシーを身に付けよう」
仕事に役立つコミュニケーションスキル、職場の人間関係・トラブル対処法

第4回 2020/2

「これだけは知っておきたいお金&制度」
今更相談できないお金のこと、自分を守る支援制度や権利

3. 講座の効果測定

講座受講の効果測定のために、参加者に対して講座前後に自己効力感アンケート調査を実施した。

3.1 実施時期

2019年11月～2020年2月

3.2 方法

自己効力感アンケートは、受講初回の前、各講座後の計5回実施した。実施ポイントを図1に示す。回答は、無記名で、受講番号を記載するように求めた。調査結果は、個人が特定されないよう統計的な処理を行う旨を紙面、及び口頭で説明した。なお、第4回終了後には、別途、受講後アンケートを実施している。

3.3 調査内容

調査内容は以下の通りである。

現状を改善するにあたっての心の準備状態

現状を改善するにあたっての心の準備状態を「心の準備

ができていない」(100%)から、「心の準備ができていない」(0%)までのビジュアルアナログスケール(図2)によって回答を求めた。

自己効力感尺度

女性の再就職・転職自己効力感尺度(横浜市男女共同参画推進協会, 2015)を利用した。横浜市男女共同参画推進協会が、女性の就労促進学び直しプログラムの効果測定のために、受講生の状態を客観的に把握するとともに、就労への自信を測定するための尺度として、学生の進路選択に対する自己効力に関する研究(浦上, 1995)を基にして開発したものである。本論文で対象とする講座の目的である「悩みや将来に対する不安の軽減、就労意欲の向上、正規職員を目指す女性の行動の後押し」に対する効果測定が可能と考え採用した。

尺度の構成は、「自分らしい働き方・家庭との両立(9項目)」「将来展望・目標設定(7項目)」「職業選択のための行動(6項目)」の全22項目3因子であった。「全く自信がない」「あまり自信がない」「少しは自信がある」「とても自信がある」の4段階で回答を求めた。分析では、1から4で得点化し、平均値を計算したものをを用いる。

思うことや感じること、心配なこと

日頃、思うことや感じること、心配なことなどについて、自由記述を求めた。別途実施した受講後アンケートの受講の理由、受講後の感想等とともに、参考データとして取り扱う。

3.4 結果

受講者の総数は31名であった。開催回ごとの受講者数の内訳は、第1回23名、第2回15名、第3回17名、第4回18名であり、のべ73名であった。また、受講回数は、1回のみ12名、2回受講4名、3回受講7名、全4回受講8名であった。

1) 受講前の状況

受講前アンケートに回答した27名の得点(表2)をみると、最も低いのは、「5年先の目標を設定し、それにしがって計画を立てることができる。」であり、2.11、次は、「自分の将来設計にあった職業を探すことができる。」で、2.12であった。最も高いのは、「収入を得ることで自分の裁量で自由に買い物や外出などができる。」であり、3.26、次は、「家庭の事情(家族の急変や子どもの病気)で急用が生じたとき、職場に事情を話し対処することができる。」と「仕事をすることを家族に理解してもらえよう話し合うことができる。」で、2.96であった。よって、受講前の時点では、5年程度先について計画し仕事を探すことには自信がないが、今現在の問題については、自分で対処できる自信がある傾向がみられる。

2) 講座受講前後の比較

受講者の受講前後の変化について検討するために、受講

前アンケートに回答した27名を分析対象として、受講前と最後に受講した回の受講後アンケートの得点を対応のあるT検定によって比較検討した(表1)。なお、分析対象者の受講回数は、1回のみ11名、2回受講2名、3回受講6名、全4回受講8名であった。

まず、「現状を改善するにあたっての心の準備状態」については、50.53%から、72.50%に上がった。自己効力感全項目の平均値は、2.53から、2.88に上がり、統計的に有意であった。各尺度の得点の平均値は、「自分らしい働き方・家庭との両立」「将来展望・目標設定」「職業選択のための行動」、それぞれ、2.70から、2.98、2.37から2.74、2.48から2.92と上がり、いずれも統計的に有意であった。よって、自己効力感全般について、講座受講によって、高まったことがわかる。

次に、質問項目ごとに詳しく検討するために、各項目の得点を比較した(表2)。その結果、「家庭生活(家事・介護・子育てなど)や個人生活と仕事の両立をすることで生活を充実させることができる。」「家事・介護・子育てと仕事の両立をすることができる。」「家庭の事情と仕事の締切を考えあわせて仕事を進めたり、人に助けを求めたりすることができる。」「仕事をするにあたり気持ちの整理をすることができる。」「ライフコースに応じて柔軟に働き方を変えていくことができる。」「自分の才能を最も活かせると思う職業の分野を決めることができる。」「5年先の目標を設定し、それにしがって計画を立てることができる。」「自分の将来設計にあった職業を探すことができる。」「キャリアアップするために必要な資格や知識について調べることができる。」「2Q自分が従事したい職業(職種)の仕事内容を知ることができる。」「2R将来どのような生活をしたいか、明確にイメージすることができる。」の14項目で、統計的に有意に得点が上がった。

3) 全講座受講者の変化の推移

講座全体による変化を検討するために、第1回から第4回までの全講座の受講者8名を対象として、講座受講後の得点の推移を確認した(表3、図2、図3)。「現状を改善するにあたっての心の準備状態」は、受講前41.67%が、第1回目後55.00%、第2回目後56.67%、第3回目後65.00%と、受講ごとに上がっており、第4回受講後には、66.67%に上がった。自己効力感の平均得点についても受講ごとに上がっており、受講前の2.31が、第1回目後2.60、第2回目後2.60、第3回目後2.77、第4回目後には2.86と、受講が進むごとに上がっていった。

自己効力感の尺度別にみると、「自分らしい働き方・家庭との両立」「将来展望・目標設定」は、2回目後、1回目後より得点が下がったが、全4回受講後には、いずれも受講前よりも得点が上がっていた。「職業選択のための行動」は、第3回目後は変化がなかったが、受講が進むごとに得点が上がっていく傾向がみられた。具体的には、受講前と第4

回後の得点は、「自分らしい働き方・家庭との両立」「将来展望・目標設定」「職業選択のための行動」、それぞれ、2.46から3.01、2.29から2.68、2.10から2.83と上がった。

4) 自由記述：受講の理由、受講後の感想等

受講の理由について、“将来についての漠然と不安があった”という記述が多くみられた。受講後は、“知らなかった知識をたくさん得ることができた”、“自己分析で知りたいことを知ることができた”、“今の仕事の中で活かすこともあり大変役に立った”といったように、知識獲得についての記述がみられた。また、“いろいろな考え方を知ることができた”、“同じ悩みを共有できて気持ちが楽になった”といったように、受講者同士や講師との交流についての記述がみられた。さらに、“今後について考えるきっかけになった”といった将来展望や、“将来の人生プランを自分なりに立てて行動しようと思う”、“お金の管理を見直そうと思う”といった今後の具体的な行動についての記述がみられた。

3.5 考察

受講前に実施した自己効力感アンケートの結果からは、自分の収入で買い物や外出する自信、及び働くことに対して家族へ理解を求めたり、家庭の事情について職場へ理解を求めたりすることへの自信は高い傾向がみられた。一方、目標設定や将来設定に対する自信については、低い傾向がみられた。また、自由記述の受講の理由にも“将来についての漠然と不安があった”という記述が多くみられた。よって、受講前は、今現在のことに対しては対処する自信があるが、将来については自信が持てない状態であったと考えられる。

自己効力感アンケートの講座受講前後の比較結果では、今回調査した、「現状を改善するにあたっての心の準備状態」「自分らしい働き方・家庭との両立」「将来展望・目標設定」「職業選択のための行動」のすべてにおいて自信が高まっている傾向がみられ、統計的に有意差が示された。また、自由記述からは、講座受講によって、知識獲得に加えて、他者との交流によって、不安が軽減していること、さらに、将来展望に思いが至ることが示された。

全講座を受講した8名の自己効力感の変化の推移からは、「自分らしい働き方・家庭との両立」「将来展望・目標設定」について、第1回目で高まった自信が、第2回目後に低くなる傾向がみられたが、これについては、新しく知識を得ることによってこれまでに知らなかったことに対する一時的な自信の低下とも考えられる。その後第3回目、第4回目と自信の高まりがみられ、最終的には、受講前よりも自信が高まる傾向がみられた。

これらのことから、「女性の仕事と暮らし応援講座」は、現状を改善するにあたっての心の準備ができてくるとともに、将来に対する不安や悩みを軽減させ、将来展望や職業

選択についての自信を高めていることがわかる。よって、就労意欲の向上、正規職を目指す女性の行動の後押しに一定の効果があったと考えられる。受講後アンケートでは、今後の具体的な行動についての記述も見られ、継続してヒアリング調査等を行っていくことで、講座の効果についてより明らかになるであろう。また、受講者同士や講師といった他者との交流による不安の軽減等の効果もみられたことから、今後、フォローアップ講座の開設や次年度の受講者との交流の場をつくるなどの検討も必要と思われる。

なお、今回は、各講座と自己効力感との関連については、初回受講前の前と講座受講後の比較検討にとどまり、各講座単体における受講前後の比較検討には至っていない。これについては、今後は、各講座の受講前にアンケートを実施することで、比較検討が可能となる。

4. おわりに

本論文では、非正規職シングル女性を対象として開設した「女性の仕事と暮らし応援講座」の概要とその効果について報告した。福岡県で実施された講座であり対象が限定的ではあるが、非正規職シングル女性を対象とした就労支援講座の概要を提示し、その有効性を示したことで、今後の非正規職シングル女性への就労支援に対する実践的な展開に貢献できたと考えられる。

付記 本論文は、「女性の仕事と暮らし応援講座事業キックオフ報告書」(福岡県男女共同参画推進課,2020)にて報告した内容を基にしている。

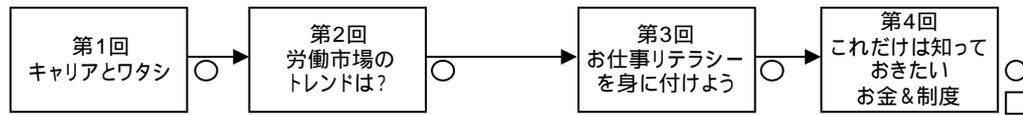
謝辞 調査実施に際しては、公立大学法人福岡女子大学疫学等研究倫理審査委員会の審査と承認を得ました。本論文の作成にあたり、調査にご協力いただいた方々に、心より御礼申し上げます。

参考文献

- 安達 智子(2001). 進路選択に対する効力感と就業動機、職業未決定の関連について 女子短大生を対象とした検討 心理学研究, 72(1), 10-18.
- Bandura, A. (1977). Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, 84, 191-215.
- 福岡県男女共同参画推進課(2020). 女性の仕事と暮らし応援講座事業キックオフ報告書 2020年3月.
- 古市 裕一(2012). 大学生の職業忌避的傾向と自己効力感および就業不安 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 151, 43-50.
- 厚生労働省(2013). 平成25年版 労働経済の分析.
- 厚生労働省職業安定局(2017). 公共職業安定所(ハローワーク)の主な取組と実績 平成29年7月.

厚生労働省雇用環境・均等局(2019).平成30年版働く女性の実情.
 奥田訓子(2017).非正規職のシングル女性を対象とした就労支援プログラムについて.日本健康心理学会.第30回記念大会プログラム.
 奥田訓子・森和代・代島奈穂子・石川利江(2018).女性のための就労支援プログラムの開発と効果評価について. Journal of Health Psychology Research, 30(1), 123-131.
 柴田由己・安住伸子(2011).女子大学生の進路選択に対する自己効力と進路探索.キャリア教育研究, 29,71-80.
 総務省統計局(2020).労働力調査.
 富永美佐子(2000).女子大学生の進路選択過程における自己効力.進路指導研究, 20(1), 21-31.

浦上昌則(1995).学生の進路選択に対する自己効力に関する研究.名古屋大学教育学部紀要, 42, 115-126.
 浦上昌則(1996).女子短大生の職業選択過程についての研究. Japanese Journal of Educational Psychology, 44, 195-203.
 横浜市男女共同参画推進協会(2015).保育・介護・看護分野での女性の就労促進学び直しプログラム実施ガイド.
 横浜市男女共同参画推進協会(2016).非正規職シングル女子のしごとと暮らし. Retrieved from <https://www.hiseiki-singlewomen.info/> (2020年6月)
 横浜市男女共同参画推進協会・大阪市男女共同参画のまち創生協会・野依智子(2016).非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書.2016年3月.



○:受講前自己効力感アンケート ○:受講後自己効力感アンケート □:受講後アンケート

図1 講座の日程とアンケートの実施ポイント

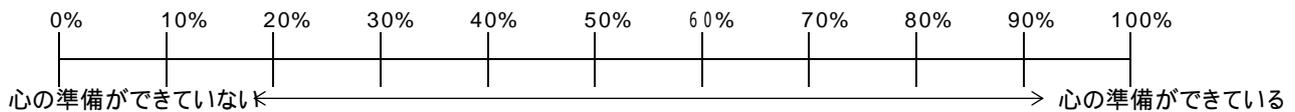


図2 ビジュアルアナログスケール

表1 受講前後の得点の比較結果

(n=27)	受講前		受講後		t値	p値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
現状を改善するにあたっての心の準備状態(100%満点)	50.53	13.17	72.50	11.99	5.82	***
自己効力感(全項目)	2.53	0.53	2.88	0.59	3.80	***
自分らしい働き方、家庭との両立	2.70	0.52	2.98	0.55	2.99	**
将来展望、目標設定	2.37	0.69	2.74	0.68	3.27	**
職業選択のための行動	2.48	0.64	2.92	0.67	3.78	***

*** $p<0.001$, ** $p<0.01$

表2 受講前後の得点の比較結果(項目ごと)

(n=27)		受講前		受講後		t値	p値	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差			
自分らしい働き方・家庭との両立	1	家庭生活(家事・介護・子育てなど)や個人生活と仕事の両立をすることで生活を充実させることができる。	2.37	0.67	2.75	0.77	3.07	**
	2	家事・介護・子育てと仕事の両立をすることができる。	2.26	0.75	2.58	0.77	3.33	**
	3	家庭の事情(家族の急変や子どもの病気)で急用が生じたとき、職場に事情を話し対処することができる。	2.96	0.92	3.09	0.70	1.00	
	4	家庭の事情と仕事の締切を考えあわせて仕事を進めたり、人に助けを求めたりすることができる。	2.62	0.88	3.04	0.78	3.33	**
	5	仕事をするにあたり気持ちの整理をすることができる。	2.67	0.61	2.92	0.82	2.21	*
	6	ライフコースに応じて柔軟に働き方を変えていくことができる。	2.38	0.68	2.74	0.75	3.43	**
	7	仕事をするを家族に理解してもらえるよう話し合うことができる。	2.96	0.84	3.04	0.63	0.94	
	8	収入を得ることで自分の裁量で自由に買い物や外出などができる。	3.26	0.70	3.17	0.63	0.25	
	9	家計を支えるために働くことができる。	2.81	0.92	3.09	0.67	1.43	
将来展望・目標設定	10	自分の興味に合うと思われる職業を選ぶことができる。	2.56	0.87	2.83	0.74	1.97	
	11	現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むことができる。	2.48	0.79	2.58	0.86	1.10	
	12	自分の能力に合うと思われる職業を選ぶことができる。	2.44	0.74	2.67	0.75	1.99	
	13	自分の才能を最も活かせると思う職業の分野を決めることができる。	2.33	0.77	2.63	0.76	2.80	**
	14	将来の仕事で役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立てることができる。	2.48	0.92	2.75	0.72	1.97	
	15	5年先の目標を設定し、それにしたがって計画を立てることができる。	2.12	0.80	2.57	0.74	3.61	**
	16	自分の将来設計にあった職業を探すことができる。	2.12	0.86	2.68	0.71	3.36	**
職業選択のための行動	17	自分が就きたい仕事に活かせるように働く体験(インターン・ボランティア)を積むことができる。	2.24	0.71	2.64	0.73	2.68	*
	18	興味のある領域の会社や組織に関する情報を手に入れることができる。	2.50	0.69	3.00	0.65	3.38	**
	19	キャリアアップするために必要な資格や知識について調べることができる。	2.88	0.70	3.09	0.70	1.81	
	20	自分の興味を持っている分野で働いている人と話す機会を持つことができる。	2.46	0.89	2.87	0.87	2.90	**
	21	自分が従事したい職業(職種)の仕事内容を知ることができる。	2.58	0.79	2.78	0.77	1.66	
	22	将来どのような生活をしたいか、明確にイメージすることができる。	2.26	0.84	2.79	0.76	3.47	**

*** $p<0.001$, ** $p<0.01$, * $p<0.05$

表3 全講座受講者の得点の推移

(n=8)	受講前		1回目後		2回目後		3回目後		4回目後	
	平均	標準偏差								
心の準備状態(100%満点)	41.67	18.35	55.00	18.71	56.67	15.06	65.00	10.49	66.67	10.33
自己効力感(全項目)	2.31	0.57	2.60	0.48	2.60	0.64	2.77	0.44	2.86	0.63
自分らしい働き方、家庭との両立	2.46	0.57	2.76	0.54	2.72	0.47	2.97	0.42	3.01	0.58
将来展望、目標設定	2.29	0.74	2.55	0.54	2.45	0.86	2.66	0.61	2.68	0.75
職業選択のための行動	2.10	0.60	2.42	0.53	2.58	0.80	2.58	0.53	2.83	0.70

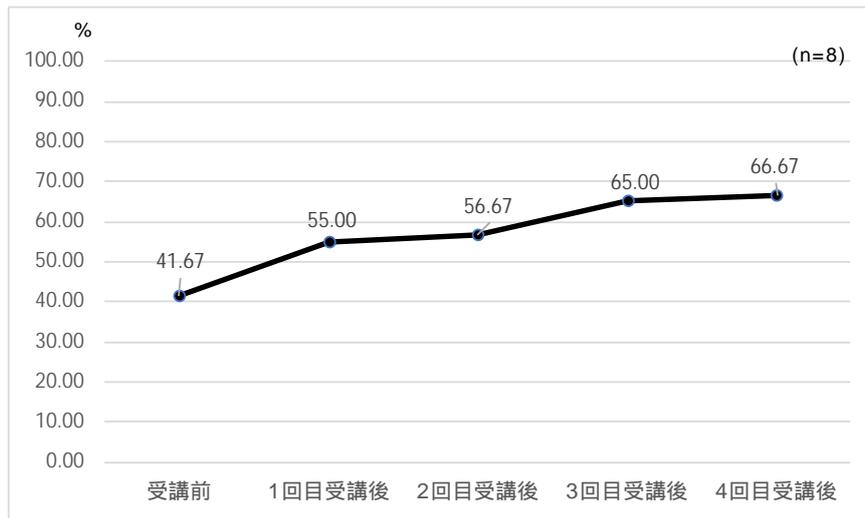


図2 全講座受講者の心の準備状態の推移(n=8)

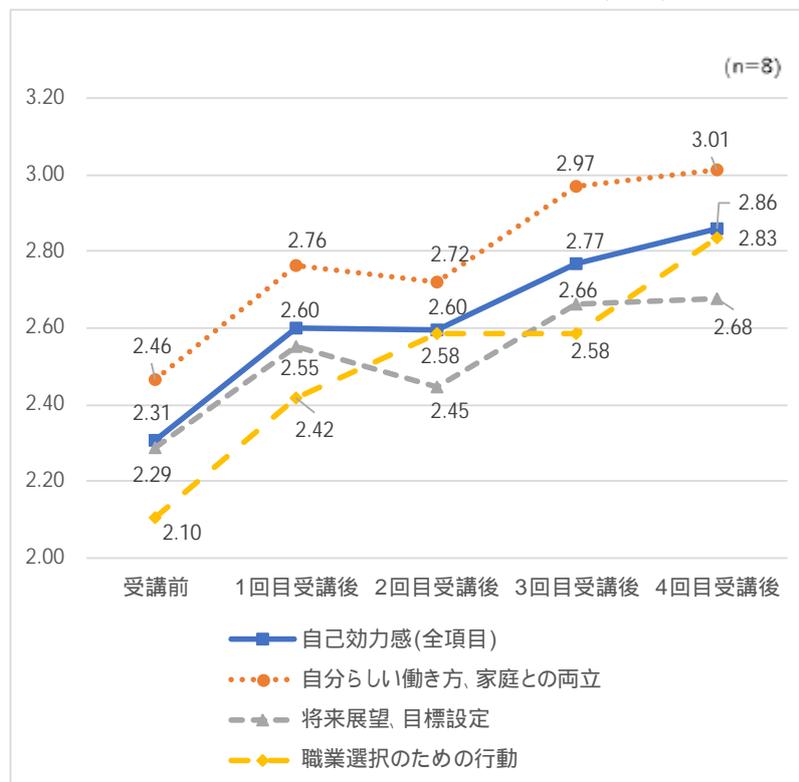


図3 全講座受講者の自己効力感の推移